# ＜＜令和５年度長期研修生　研究主題一覧＞＞

県総合教育センター研修企画部
（所属校は令和５年度）

| 番号 | 研修内容 | 氏名 | 所属校 | 研究主題 | 掲載号 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 国語 | 西林　沙紀 | 松戸市立第四中学校 | 社会を認識し思考する力を育てる語彙指導<br>―継続的に語彙に目を向ける指導を基盤として― | 菊 |
| 2 | 国語 | 加藤　美幸 | 大網白里市立大網東小学校 | 自ら表現様式を選択し継続して表現する児童の育成<br>―個別最適な学びを大切にする新聞づくりを通して― | 梅 |
| 3 | 国語 | 西谷　真澄 | 睦沢町立睦沢中学校 | 情報を関連付け考えを形成する読むことの学習指導<br>―「英雄」を論じるテーマ読書を通して― | 萩 |
| 4 | 国語 | 池田　真美 | 勝浦市立上野小学校 | ESDに基づく国語科の地域単元の開発<br>―多面的に情報を活用し他者とのコミュニケーションを重視して― | 菜 |
| 5 | 社会 | 武藤　紗耶香 | 八千代市立阿蘇米本学園 | 批判的思考力を高めるための社会科学習の在り方<br>―ダブルルーブ学習を組み込んだ地理的分野「関東地方」の学習を通して― | 蓮 |
| 6 | 社会 | 波田地　翔 | 柏市立松葉中学校 | 責任ある意思決定を行う自立した市民の育成を目指す社会科学習<br>―地域の在り方を批判的に捉える対話的な学びを通して― | 菊 |
| 7 | 社会 | 宮森　健治 | 市川市立大野小学校 | 問題解決の見通しをもち、問い続ける子供を育てる社会科学習 | 萩 |
| 8 | 社会 | 南部　伊織 | 山武市立成東小学校 | 主体的に学び、仲間と協働して納得解を導き出そうとする児童の育成<br>―社会科学習におけるICTの活用を通して― | 梅 |
| 9 | 社会 | 齊藤　雅人 | 市原市立牛久小学校 | 地域教材を活用し、郷土への誇りを育む歴史学習の在り方<br>―博物館の資料をもとに中央史と上総の国の関わりを学ぶ活動を積み重ねて― | 菊 |
| 10 | 社会 | 吉岡　志隆 | 鴨川市立田原小学校 | 海外日本人学校との交流を通した社会科における国際教育<br>―マイノリティとマジョリティの視点から― | 菜 |
| 11 | 算数 | 柴田　政之 | 市川市立二俣小学校 | 自分なりの結論の妥当性について批判的に考察する力を高める学習指導<br>―統計的探究プロセス（PPDACサイクル）の実現を目指して― | 菊 |
| 12 | 算数 | 村岡　大地 | 松戸市立松ケ丘小学校 | 数学のよさの感得の様相を捉える枠組みに基づく学習指導<br>―小学校第４学年「概数」の実践を通して― | 蓮 |
| 13 | 算数 | 梶原　太志 | 印西市立原小学校 | 統計的な問題解決における多様な考えを生かした指導<br>―「分析」と「結論」の過程に着目してー | 菜 |
| 14 | 算数 | 池永　卓司 | 袖ケ浦市立中川小学校 | 図形の性質を活用して数学的な見方・考え方を働かせる児童の育成<br>―第５学年「面積」の指導を通して― | 梅 |
| 15 | 理科 | 葭葉　彩子 | 船橋市立海神南小学校 | 小学校５年「物の溶け方」「電流がつくる磁力」における<br>学びの有用性を高めるための個別型探究学習の推進 | 菜 |
| 16 | 生活 | 足立　亜伊 | 袖ケ浦市立昭和小学校 | 「自然や物を使った遊び」の単元開発<br>―児童と教師が共に学習内容をつくり出していく授業の在り方― | 萩 |
| 17 | 音楽 | 大塚　咲子 | 船橋市立小室中学校 | 生徒が感性を働かせて表現を創造する歌唱指導の追求<br>―ESDの視点を取り入れた音楽科における題材開発を通して― | 菜 |
| 18 | 音楽 | 三幣　望未 | 館山市立神余小学校 | 一人一人が思いや意図をもち、表現を高めていく学習指導の在り方<br>―協働しながら音楽づくりをすることを通して― | 菊 |
| 19 | 図画工作 | 有福　絵里加 | 八千代市立睦小学校 | 造形遊びの定着を目指した素材と場所、教師の役割の設定<br>―図画工作科においての地域のRemidaを目指して― | 萩 |
| 20 | 図画工作 | 佐久間　洸一 | 市原市立水の江小学校 | 題材の評価規準から児童の姿をイメージ・共有することの有効性の検証<br>―下学年の造形遊びにおける実践を通して― | 梅 |
| 21 | 体育 | 牧口　真也 | 我孫子市立我孫子第三小学校 | 投能力向上を目指した体育学習の在り方<br>―自己指導能力の育成に着目した陸上運動領域「投の運動」の授業実践を通して― | 菜 |
| 22 | 体育 | 日笠　良太 | 佐倉市立間野台小学校 | 共生の視点を重視したゴール型サッカーの学習に関する研究<br>―アダプテーション・ゲームにおける児童のゲームパフォーマンスに着目して― | 萩 |
| 23 | 体育 | 椿　琢磨 | 香取市立栗源小学校 | コーチングスキルを活用した自己効力感を高める体育学習の在り方<br>―ベースボール５の教材化を通して― | 梅 |
| 24 | 体育 | 永野　和哉 | 茂原市立萩原小学校 | 体育ポートフォリオを活用したゴール型ハンドボール学習の研究<br>―児童に自己の伸びを実感させる手立てに着目して― | 菊 |
| 25 | 体育 | 平島　和弥 | 館山市立館山小学校 | 鉄棒運動に親しむことができる児童の育成<br>―マット運動と鉄棒運動に共通する知識や運動感覚を活用する指導を通して― | 菜 |
| 26 | 技術・家庭 | 熊谷　光朗 | 八千代市立勝田台中学校 | 先進的な情報技術とのつながりによる技術観の育成<br>―スマート農業におけるドローン技術の活用に焦点を当てた学習を通して― | 梅 |
| 27 | 技術・家庭 | 阪田　真也 | 袖ケ浦市立昭和中学校 | 生活上の問題を見いだし、個に応じて課題を設定する力を高める学習指導法の研究<br>―材料と加工に関する導入時の指導方法を通して― | 蓮 |
| 28 | 外国語 | 上原　美咲 | 柏市立柏の葉中学校 | 中学校英語授業におけるリテリング指導<br>―プランニングからリプロダクションにとどまらない再話を目指して― | 梅 |
| 29 | 外国語 | 野澤　敬子 | 流山市立八木中学校 | コミュニケーション・ストラテジーを意識させた帯活動の実践<br>―英語でコミュニケーションを図ろうとする意欲を高める手立てとして― | 菜 |
| 30 | 外国語 | 水間　健太 | 市原市立国分寺台中学校 | 帯活動とオンライン交流授業を組み込んだ<br>「話すこと［やり取り］」の技能を高めるための授業モデルの開発と評価<br>―英語科教員誰もが取り組める実践を目指して― | 桜 |
| 31 | 小学校<br>外国語 | 直枝　祐樹 | 浦安市立富岡小学校 | 話すこと［やり取り］における主体的なコミュニケーション意欲の向上<br>―第６学年における必要感をもたせたスキットの活用を通して― | 梅 |
| 32 | 小学校<br>外国語 | 渡邉　志乃 | 茂原市立東郷小学校 | 英語音声と文字をつなげる明示的な音声指導の在り方<br>―自ら気付き、発音できる児童を目指して― | 萩 |

## 長期研修生報告

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 33 | 小学校<br>外国語 | 佐々木　有紀子 | 茂原市立本納小学校 | 中学校へつなぐ書くことの指導<br>―個に合った文字指導と小中連携による言語活動を通して― | 菊 |
| 34 | 道徳 | 田中　大輔 | 浦安市立高洲中学校 | 自己の生き方について考えを深める道徳科の授業の実証的研究<br>―納得解の紡ぎと、ルーブリックを活用した振り返り活動による学習改善を通して― | 梅 |
| 35 | 道徳 | 橋本　舞佳 | 柏市立大津ケ丘中学校 | 生徒が「生き方の問い」を生む道徳科授業の研究<br>―問いⅠ・問いⅡづくりによる生き方の探求を通して― | 桜 |
| 36 | 特別活動 | 後藤　律子 | 船橋市立高根台第三小学校 | 児童のエージェンシー発揮を支援する特別活動<br>―AARサイクルの獲得を目指す学級活動を通して― | 菊 |
| 37 | 学校・学年<br>・学級経営 | 弓納持　裕 | 東金市立日吉台小学校 | 学級の心理的安全性の醸成<br>―教員のリーダーシップ行動向上シートの実践を通して― | 菜 |
| 38 | 生徒指導 | 鈴木　信也 | 旭市立飯岡小学校 | 援助希求的態度を育成する生徒指導の実践<br>―開発教材による授業実践と児童理解を深める校内研修を通して― | 菊 |
| 39 | 現代的<br>教育課題 | 小林　郁和 | 柏市立大津ケ丘第一小学校 | 地域との協働学習による児童の情報活用能力の育成<br>―１人１台端末を活用したGoogleサイトを用いたウェブサイト制作を通して― | 桜 |
| 40 | 現代的<br>教育課題 | 上園　雄太 | 野田市立七光台小学校 | 小学校段階におけるクリティカル・シンキング教育の実践<br>―教科等横断的な視点でのGoogle Classroomの活用を通して― | 梅 |
| 41 | 発達障害 | 髙橋　裕子 | 県立鎌ヶ谷西高等学校 | 発達障害の可能性がある生徒のための、<br>高等学校普通科で自己理解を深め進路決定を支援する方策<br>―生徒が目標をもって高校生活を送り、見通しをもった進路選択につなげるために― | 萩 |
| 42 | 病弱・身体虚弱,<br>重度・重複障害 | 齋藤　瑞帆 | 県立仁戸名特別支援学校 | 病気療養児の復学を見据えた病弱特別支援学校と小学校の連携<br>―事例の検証を通して― | 菊 |
| 43 | 知的障害 | 江澤　加奈 | 県立飯高特別支援学校 | 自己有用感を高めるための指導・支援に関する研究<br>―総合的な探究の時間（地域学校協働活動）を通して― | 桜 |
| 44 | インクルー<br>シブ教育 | 新宮　晃 | 県立東金特別支援学校 | 知的障害特別支援学校における継続的な居住地校交流の進め方について | 菜 |
| 45 | 特別支援<br>教育課題 | 中村　真里 | 県立特別支援学校<br>市川大野高等学園 | 知的障害特別支援学校（専門学科・職業コース）における効果的な教育相談の在り方<br>―「チーム学校」としてスクールカウンセラーを効果的に活用するために― | 梅 |
| 46 | 特別支援<br>教育課題 | 河名　俊 | 県立大網白里特別支援学校 | 特別支援学校に在籍する児童生徒の自助・共助の力を高めるための防災教育の在り方 | 萩 |
| 47 | 特別支援<br>教育課題 | 鈴木　真紀 | 県立安房特別支援学校<br>館山聾分校 | 保護者の援助要請を導く支援スキルの在り方について<br>―保護者の援助要請行動が変容するプロセスに着目して― | 桜 |
| 48 | 特別支援<br>教育課題 | 西村　啓太郎 | 船橋市立薬円台小学校 | ユニバーサルデザインの視点を活用した協働的な授業の探究<br>―全ての児童が学びやすい環境、指導方法とは― | 菊 |
| 49 | 特別支援<br>教育課題 | 吉川　祐子 | 松戸市立小金北中学校 | 中学校通常の学級における意思の表明を起点とした合理的配慮の提供の在り方<br>―特別支援教育コーディネーターの学級担任支援を通して― | 萩 |
| 50 | 特別支援<br>教育課題 | 古川　幸夫 | 柏市立風早中学校 | １人１台端末を活用した自立活動の指導の充実<br>―指導者及び生徒が活用可能なツールの検討― | 桜 |
| 51 | 特別支援<br>教育課題 | 力丸　真紀子 | 印西市立原山中学校 | 中学校通常の学級「外国語」授業における生徒の注意集中の変容<br>―授業のユニバーサルデザインに基づく支援の手立てを通して― | 萩 |
| 52 | 発達障害 | 内山　泰 | 山武市立南郷小学校 | 自閉症・情緒障害特別支援学級の児童が肯定的な自己理解を深める支援の工夫<br>―「自己探究プログラム」の実践を通して― | 菜 |
| 53 | 教育臨床 | 赤尾　麻衣 | 県立市川工業高等学校 | 「ケース検討学習モデル」の提案 | 桜 |
| 54 | 教育臨床 | 石井　夏江 | 県立槇の実特別支援学校 | 「ケース検討学習モデル」の提案 | 桜 |
| 55 | 教育臨床 | 子安　裕佳里 | 県立長生特別支援学校 | 「ケース検討学習モデル」の提案 | 桜 |
| 56 | 教育臨床 | 佐藤　陽子 | 白子町立関小学校 | 「ケース検討学習モデル」の提案 | 桜 |
| 57 | 企業等派遣 | 久保　善啓 | 県立浦安高等学校 | 民間企業における社会動向と経営手法の実際の考察 | 梅 |
| 58 | 企業等派遣 | 福島　啓太 | 県立千葉特別支援学校 | ホテル業界とともに考え学ぶ、障害者雇用 | 桜 |
| 59 | 企業等派遣 | 蘭牟田　明 | 県立東金特別支援学校 | チームとして協働する組織づくりについて<br>―百貨店の研修で学んだ知見から― | 菜 |
| 60 | 企業等派遣 | 小林　真 | 野田市立東部小学校 | 企業の経営手法から学ぶ学校教育目標具現化のためのマネジメント | 萩 |
| 61 | 企業等派遣 | 大平　哲也 | 市原市立ちはら台西中学校 | 派遣企業から学ぶ組織マネジメントとホスピタリティ | 萩 |
| 62 | 企業等派遣 | 金城　太希 | 県立犢橋高等学校 | 企業におけるICTを活用した地域連携と働き方改革 | 菊 |

・研修内容の教科等、特別支援教育、教育臨床については、教育コンテンツ・データベース「Wakaba」で閲覧することができます。

・千葉県総合教育センターWebサイトトップページ→学校支援／授業支援→学習指導案等で検索してください。

## 社会　批判的思考力を高めるための社会科学習の在り方
### -ダブルループ学習を組み込んだ地理的分野「関東地方」の学習を通して-

県総合教育センター研究指導主事（前八千代市立阿蘇米本学園教諭）　武藤（むとう）　紗耶香（さやか）

日々の実践の中で、生徒の批判的思考力を育成することは社会科の使命でもあると感じたことが、本研究を始めたきっかけである。本研究では、批判的思考力の育成に有効な社会科学習の在り方を明らかにするため、自分自身の考えやそこに至るまでのプロセスを見直すことを促すダブルループ学習を組み込んだ単元モデルを考案し、中学２年生を対象に授業を実施した。その結果、「最善の結論を見出すための視点で考えること」と「反省的な思考を巡らすこと」につながり、批判的思考力の高まりが見られた。

本単元モデルは、他の単元でも活用できるモデルであるため、授業で広く活用していただき、今後の千葉県を担う子供たちの成長につながれば幸いである。

## 算数　数学のよさの感得の様相を捉える枠組みに基づく学習指導
### -小学校第４学年「概数」の実践を通して-

松戸市立松ケ丘小学校教諭　村岡（むらおか）　大地（だいち）

算数科における情意面の課題は、継続的に報告されている。ともすると知識・技能の定着ばかりが重視される算数科において、「算数はおもしろい」と児童が実感するために、数学のよさの感得に着目した。しかしながら、よさの感得は目には見えない。そこで、「数学のよさの感得の様相を捉える枠組み」を作成し、小学校第４学年「概数」の単元において、枠組みに基づいて児童を見取り、児童の様相に応じた言葉掛けを行った。また、指導計画上によさを位置付け、単元を通して枠組みに基づく学習指導を行うだけでなく、よさが明示的になる比較や振り返る場面の設定も取り入れた。その結果、学力差に関係なく多くの児童が数学のよさを感得できた。今後は作成した枠組みが他の単元でも有効か検証する。

## 技術・家庭　生活上の問題を見いだし、個に応じて課題を設定する力を高める学習指導法の研究
### -材料と加工に関する導入時の指導方法を通して-

木更津市立木更津第二中学校（前袖ケ浦市立昭和中学校）教諭　阪田（さかた）　真也（まさや）

科学技術が急速に発展する現代、どのように作るか等の「方法」以上に、何を作るか、何のために作るのかという「目的」を考えることが、これからの子供たちに必要不可欠な力になると考える。そこで、生活上の問題を見いだし、個に応じて課題を設定する力を高めるために、中学校第１学年を対象に、材料と加工における導入題材の製作を通した学習の指導法に工夫を講じた。実践的推論プロセスを用いた導入時の試作品・構想物の製作を通じて、知識・技能、見方・考え方、技術的な視点を養うことで、身近な生活の中から自己や家族に関する問題を見いだし、解決に向けて個に応じて課題を設定する力を高めることができた。今後はこの一連の学習の流れを他の内容にも適用させ、効果を検証したい。